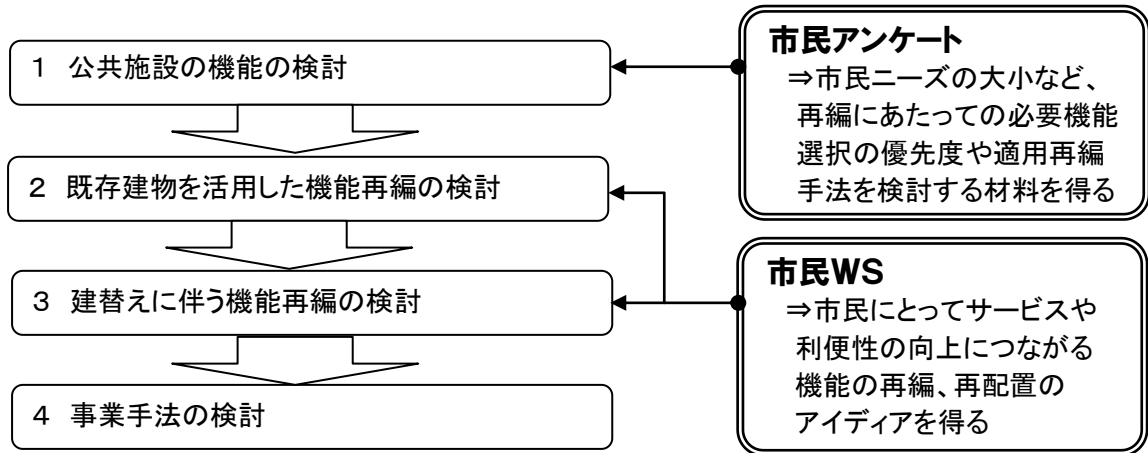


## 市民アンケートおよび市民ワークショップについて

### 1. 市民アンケート及び市民ワークショップ(WS)の目的と今後の検討における位置づけ

- ・再編計画の検討に際しての材料として、市民目線からの意見を取り入れるために実施する。



### 2. 市民アンケートについて

#### (1) アンケートの目的

- ・公共施設の機能について、行政関与の度合いを検討する際の参考とするため、公共施設の必要性等に関する市民の意向を把握する。

#### (2) アンケートの概要

- ・昨年度の市民アンケートにあるように、具体的な「施設」については認知されていない場合も多いため、公共施設の「機能」を示して、必要性等の複数の視点から評価を求める。
- ・評価については、行政関与の必要性の度合いを把握するために、下記の視点に基づき、市民が求める機能を複数選択で回答していただくことで、相対比較による優先度を評価することを想定している。

#### <想定している評価の視点と評価軸の考え方>

評価の視点	評価軸の考え方
サービスの必需性	無いと困る ⇔ あれば嬉しい (無くても困らない)
行政の関わり方への期待、行政に対する信頼性	行政に提供して欲しい ⇔ 民間に提供して欲しい
コスト負担に対する意識	料金等の負担があっても (大きくても) 利用する ⇔ 料金等の負担があれば (大きければ) 利用しない

## ■アンケート項目（案）

（評価に関する設問の考え方）

- ・ 必要性の高さについて評価を求める場合、可能であれば多くのものを手に入れたいたいという発想になりがちであり、必要性の違いを見出すことが難しいものと考えられる。
- ・ そこで、必要性が相対的に低い機能を確実に抽出するために、全ての機能を保持できない場合に、あきらめてもよい機能の選択を求めるネガティブな設問を設定している。

（アンケート項目）

- ・ 属性
- ・ 公共施設の利用状況
- ・ 公共施設で提供されているサービスの必要性
- ・ サービスの提供者（行政・民間）に関する意向とその理由
- ・ コスト負担に対する意識
- ・ 公共施設の集約化・統廃合などによる影響

（設問の例）

問1 公共施設が提供する以下の機能について、あなたが利用しているものがあれば全て選択してください。また、それらの利用頻度についても、併せて選択してください。

【利用頻度】 毎日、毎週、毎月、2,3ヶ月に1回、年に1回程度

問2 公共施設が提供する以下の機能について、以下の設問に該当するものを、それぞれ5つ選んでください。

①今の自分自身の生活という視点ではなく、鎌倉市に暮らす全ての市民が生活を送る上で、必ずしも無くても困らないと思うサービスや機能はどれですか。＜サービスの必需性＞

②行政が提供するのではなく、民間が提供すべきと思うサービスや機能はどれですか。

また、その理由についても記入してください。＜行政の関わり方＞

③現状のサービスのまま、今より料金を多く支払うことになった場合、利用を見合わせると思うサービスや機能はどれですか。＜コスト負担に対する意識＞

問3 公共施設が提供する以下の機能について、同じ建物やすぐ近くで利用できれば良いと思うものがあれば、その組合せを記入してください。また、その理由についても記入してください。

問4 公共施設が提供する以下の機能について、他の機能と併せて一つの建物に配置する複合化、利用状況に応じてサービス提供場所の数を適正化する集約化・統廃合、老朽化した建物を建替えずに他の公共施設の未利用の建物に移転するなどの再編を行う場合に想定される問題や、困りそうなことがあれば、該当する機能を選択し、その内容を記入してください。

■ 選択項目（鎌倉市の提供する公共施設の機能一覧）

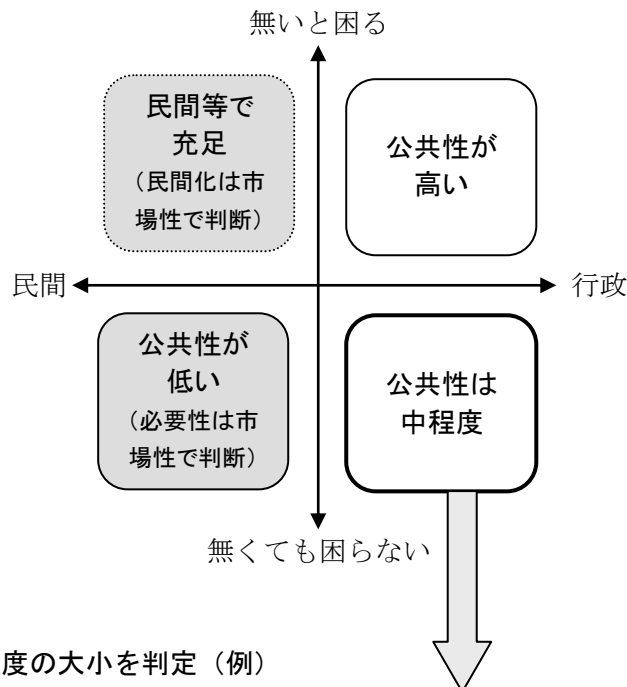
大項目	小項目
1.行政事務	1.各種証明書の発行サービス
	2.行政上の手続き
2.生涯学習	3.趣味や教養などの講座・講習会（学習機会）
	4.音楽関係（演奏・鑑賞）のサークルやグループ活動の場
	5.芸術関係（創作・鑑賞）のサークルやグループ活動の場
	6.料理関係のサークルやグループ活動の場
	7.集会や交流のサークルやグループ活動の場
3.図書	8.図書サービス
4.学校教育	9.学校教育
5.保育	10.保育サービス
6.子育て支援	11.子育てアドバイザーによる助言・指導
	12.子育てに関する情報提供サービス
	13.子育ての交流の場
	14.青少年の交流と活動の場
	15.未就学児とその保護者から中高生や若者までを対象とした様々な講座
	16.保護者の仕事や疾病などの事情によって学校から帰宅して世話する人がいない子どもに対して家庭的な生活ができるような場所
	17.0歳児から中学生までの適切な遊び場
7.福祉	18.福祉団体・ボランティア等を支援する地域活動の拠点
8.高齢者福祉	19.老人デイサービス・療育に関する相談窓口
	20.各種介護サービスの拠点
	21.デイサービス
	22.お年寄りを対象とした健康の増進、教養の向上及びレクリエーション
9.障害者福祉	23.知的障害児の通園・リハビリ指導・言語聴覚指導
	24.知的障害者の通所更生・授産
	25.障害児の放課後余暇支援
10.文化	26.パーティ・会食に利用できる場
	27.音楽や演劇鑑賞ができるホール
11.集会	28.会議ができる部屋の貸室サービス
12.スポーツ	29.屋内競技場、トレーニング設備
	30.武道場（剣道、弓道、柔道）
	31.プール
13.住宅	32.一般世帯向け住宅
	33.高齢者・障害者世帯向け住宅
14.消防	34.消防
15.歯科診療	35.休日急患歯科診療
16.ごみ処理	36.ごみ処理やリサイクル
17.歴史	37.文化財の保存・展示

※選択項目は小項目レベルとし、網掛けの機能については、公衆衛生の確保や生活保障の関係から行政が関与すべき機能と考えられるため、選択項目から除外することを想定している。

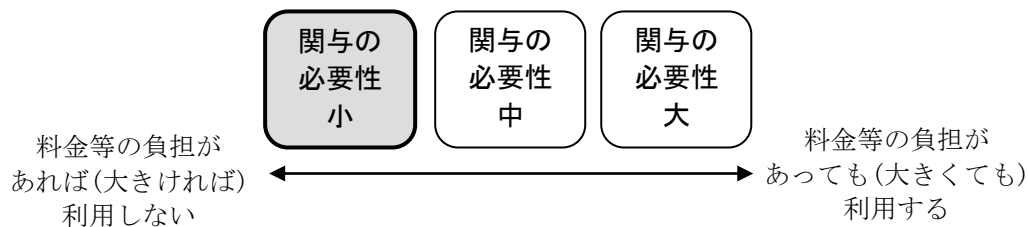
### (3) アンケート結果の活用方法

#### ① 2つの評価軸を組合せた分析（例）

- ・ 2つの評価軸に対するポジショニングにより機能を類型化し、類型に応じたニーズの大小や優先度の判定や、適用可能性のある再編手法の選択に利用する



#### ② 一つの評価軸で程度の大小を判定（例）



### (4) アンケートの実施方法

- ・ 公共施設の実態のデータを示しながら設問をすることを考えているため、紙面では分量が多くなり、回答が得られない可能性があるため、WEBアンケートにより実施する予定である。

#### ■ サンプル数について

- ・ 意識調査のように回答を選択した人の割合を調査する場合、誤差 5%の信頼度を確保するための必要サンプル数は、母集団が 5 万人以上であれば、人数に関わらず概ね 400 件程度となる。  
(※統計学における、母集団の数と回答の信頼度に応じたサンプル数を算定する式による。)
- ・ WEB リサーチ会社の登録者 2,000 人程度（鎌倉市在住の 18 歳以上の方）を対象  
※登録者数：18～20 歳代 484 名、30 歳代 567 名、40 歳代 629 名、50 歳代 285 名、60 歳代以上 227 名

### 3. 市民WSについて

#### (1) 市民WSに期待する役割、実施の目的

- ・ 公共施設再編の必要性や課題について情報共有を図る。
- ・ 再編計画の検討材料として、市民目線からの望ましい施設配置や複合化・集約化して欲しい機能など多様な意見を得る。
- ・ WSの回数が限られることや、市民代表の意見として結論のとりまとめを求めるのではないことを考慮し、自由に意見を出していただくことを重視する。

#### (2) 参加者の募集方法

- ・ 無作為抽出の市民から、50名程度を募集する。

#### (3) WSのテーマと進め方

- ・ WSは、2月に3回の開催を予定している。

##### ①テーマ

- ・ 再編手法の適用に際し、集約化や複合化における具体的な機能の組合せや配置場所のあり方等、利便性の向上や他施設との相乗効果が発揮され、市民にとってメリットのある方法や留意すべき点に関する意見を求める。

##### ②WSの進め方（案）

###### a. 議論の進め方の概要

- 1回目： 前半は勉強会的な形式で、公共施設の現状を認識していただく。  
後半はグループ分けをし、公共施設の課題について意見を出し合う。
- 2回目： グループ分けをし、公共施設のサービスのあり方について意見を出し合う。
- 3回目： グループ分けをし、施設サービスの質を高める方策や課題解決について意見を出し合う。

###### b. 班構成について

- ・ 市内PTの班分け（用途別再編PTの4チーム）を念頭に、利用者像の分類（行政サービスに興味のある方、生涯学習・スポーツ・文化に興味のある方、子育て世代、健康な高齢者や介護等の支援が必要な人及びその家族等）に対応した班を設置する。（5名程度×8班（分野）、35～50名程度を想定）

###### c. 議論の方法

- ・ 参加者から多様な意見を引き出すため、ワールドカフェ的に班を組み替えながら議論することを想定している。
- ・ コーディネーターはコンサルタントが担当する。

##### ③WSの成果の活用方法

- ・ 複合化の組合せなど再編計画策定の参考とする。

(参考) アンケート調査のサンプル数について

○前提

信頼度 95%

○サンプル数を算出する式

$$n = N / \left( \left( \varepsilon / K(\alpha) \right)^2 \times (N-1) / \sigma^2 \right) + 1$$

【変数】

N=母集団の大きさ

n=必要サンプル数

$\sigma^2$ =母分散

$\varepsilon$ =要求精度 (±5 と設定)

$100 - \alpha$ =信頼度 (%) ; 95%のとき  $\alpha=5$

$K(\alpha)$ =正規分布表からの値 ; 信頼度 95%の時 1.96

○母集団に応じた必要サンプル数

母集団の大きさ(N)	必要サンプル数(n) 信頼度 95%	必要サンプル数(n) 信頼度 90%
100	80	73
500	217	176
1,000	278	213
5,000	357	257
20,000	377	267
50,000	381	269
100,000	383	270
500,000	384	270